

■日本医事法学会役員名簿

(五十音順)

理事

石井美智子

宇部本伸 (代表理事)

押田茂實・甲斐克則

加藤良夫・草刈淳子

白井泰子・鈴木利廣

塚本泰司・中村好一

新美育文・平林勝政

福岡誠之・町野 朔

丸山英二

監事

金川琢雄・唄 孝一

編集委員

石井美智子・岩志和一郎

甲斐克則・児玉安司

佐藤雄一郎・塚本泰司

手嶋 豊・富田清美

新美育文・古川俊治

丸山英二 (編集幹事)

山縣然太郎・山口斉昭

良村貞子

■編集後記

▼第三三回総会は、二〇〇三年一月三〇日に東京医科大学で開かれた。円滑な大会運営に尽力いただいた同大学の関係者ならびに学会事務局に協力いただいた会員諸氏に感謝したい。また、意欲的な報告をしてくださった報告者をはじめとして、参加者のみなさまにもお礼申し上げたい。

▼総会のシンポジウムは、「いま、医行為を問い直す——静注、気管挿管、喀痰吸引……」というテーマのもと、医師以外の者が行う医行為の許容性について議論された。問題の背景に「医師でなければ、医業をなしてはならない」と定める医師法一七条と、すべての医療行為を医師・医療職のみでまかなうのは不可能という現状があり、現場の必要性と患者の安全の制度的確保との折り合いを、現行制度の下でどのようにつけるのか、に問題の核心があるのは確かのように思えるが、加えて、各専門職間の相互関係(上下・対等)や各々の業務範囲に関する伝統的

観念も議論の背後に潜んでいるように問題の難しさが窺えた。

▼いずれにせよ、その後も、非医療従事者による自動体外式除細動器(AED)の使用が認められ、非医師・非医療職による在宅及び看護学校における日常的な医療の許容性が検討されているように、今後、この問題がクローズアップされ続けることに疑問の余地はない。本シンポの議論が活用されることを期待したい。

▼八月一日から五日にかけて、オーストラリア・シドニーにおいて、第一五回世界医事法会議が開かれた。今回は日本からの参加者が少なく、来年度国際医事法会議を開く韓国や、次々回(二〇〇八年)の開催国である中国に比して、わが国の影が薄かった。また、本誌の編集委員をお願いしていた富田清美さんとは、この会議で一緒になることが多かったが、そのお姿をもう目にすることができなくなつたことが悼まれる。

▼編集幹事としての私の任期は本

号で終り、二〇号からは、早稲田大学の甲斐克則理事に引き継いでいただく。編集委員は、新美、富田、丸山が抜け、小西知世、増成直美、横野恵の三氏が新たに加わる。これまでの協力にお礼を申し上げるとともに、新編集委員会にも一層のご協力をお願いして、結びに代えたい。(丸山)

年報 医事法学 19 2004年10月10日発行

編集 日本医事法学会
〒259-1292 神奈川県平塚市北金目1117
東海大学法学部気付 FAX 0463-59-5390
http://square.umin.ac.jp/jaml/
発行 (株)日本評論社 振替00100-3-16
〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
電話 03-3987-8621(販売) -8631(編集)
印刷 (株)平文社 Printed in Japan
ISBN4-535-05419-3